平成7年7月3日

## 戦後５０年いま新たに恒久平和を願って

# 『としま非核平和のつどい』

## 女優香川京子さん等を迎えトークエッセイなど催された

３日、区立豊島公会堂（豊島区東池袋１－１９）で、『としま非核平和のつどい』が開催された。今年で１３回目。例年豊島区民センター文化ホールを会場に開催されていたが、戦後５０年の節目の年ということで、より多くの区民の皆さんと考えたいということで、公会堂を会場に開催された。

まず、加藤豊島区長が「本年は、世界の各国においても、戦後５０年の催しが行われている。戦後５０年の意味するものは各国で一様ではないが、世界の人々が一人ひとり改めて平和を守る決意を新たにする年であろうと思う」と話し、また「中国に続きフランスも核実験の再開を決定したことは憤慨に堪えない」と核兵器の廃絶と世界平和の実現のため、さらに努力することを誓った。

第１部として映画『ひめゆりの塔』（第１作目）にも出演された女優の香川京子（かがわきょうこ）さん、沖縄戦を「ひめゆり学徒隊」として体験された『東京ひめゆり同窓会』の与那覇百子（よなはももこ）さんを迎えＮＨＫ教育テレビ「中学一年生の理科」司会等をされている湯浅真澄（ゆあさますみ）さんの司会で「トークエッセイ」が行われた。

初めに、香川さんが「『ひめゆりの塔』の撮影した当時は、まだ沖縄が返還される前でした。沖縄戦で亡くなった人たちのことを人間として是非多くの人々に伝えなくてはという使命感で終始撮影に臨みました。この映画撮影の２０数年後、『ひめゆり学徒隊』の３４年ぶりの卒業式のリポーターを務めた時に初めて沖縄の地を踏み、与那覇さんと知り合い、この縁で平成４年に『ひめゆりたちの祈り』を出版、各地で講演活動を行うようになりました。」と与那覇さん知り合った経緯等を話した。次いで与那覇さんは、先の６月２３日に『平和の礎』の除幕式に参列し、家族４人を戦争でなくした遺族の一人として、その時生きた人々の証が刻まれたことに大変感激した話をされ、「トークエッセー」が始まった。

与那覇さんがひめゆり学徒隊の一員として、爆撃を受ける中で傷病兵の看護に当たった当時の生々しい話をされ、また香川さんの戦争体験は常に仕事を通してのもので、広島・長崎の原爆を体験した人たちの手記などで作られた朗読劇『この子たちの夏』の台本に接した時涙が止まらなかった話などされ、「戦争を体験してきた人は命のありがたさを日々思っている。戦争を知らない世代の人たちに『命の尊さ』を語り伝えていくことが私達の責任であり、使命であると思う」と話した。シンと静まり返った会場の中でハンカチを目に当てながら聞いている人の姿が目についた。

第２部はダークダックスをゲストに迎え、平和記念コンサートが開かれた。幕が上がると「銀色の道」を歌う４人のメンバーが緑色のライトに照らされて登場。ユーモアを交えた構成でくつろいだ雰囲気の中、ほろりと涙する曲もあった。『青い山脈』の時には会場の約１０００人の聴衆は手拍子をとりながら一緒に口ずさんでいた。

《次頁につづく》

豊島区は昭和５７（１９８２）年７月２日に、２３区で初めて世界の恒久平和を願い『非核都市』を宣言。以来、毎年、宣言の主旨にのっとり非核関連資料の展示や、講演会などを開催してきた。また、平成２年には区民が誇りうる平和の象徴として池袋西口公園に『平和の像』を建立している。

【非核都市宣言】

世界の恒久平和は、人類共通の願いである。しかし、核軍拡競争は激化の一途をたどっている。われわれは、人類唯一の被爆国民として平和憲法の精神に沿って核兵器の全面禁止と軍縮の推進について積極的な役割を果たすべきである。

よって、豊島区及び豊島区民は、わが日本の国是である「非核三原則（造らず、持たず、持ちこまず）」が無視され、われわれの海や大地に核兵器が持ちこまれることを懸念し、わが豊島区の区域内にいかなる国の、いかなる核兵器も配備・貯蔵はもとより、飛来、通過することも拒否する。

豊島区及び豊島区民は、さらに他の自治体とも協力し、核兵器完全禁止・軍縮、全世界の非核武装化にむけて努力する。

昭和５７年７月２日

詳細　総務課総務係

写真は午後５時から区役所広報課でお渡しします。